様式
３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

吉備国際大学人間科学部人間科学科作業療法学専攻（令和6年度）

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
人間科学部人間科学科作業療法学専攻（	4人	1人	3人	0人	8人	6人	6人	0人	11人	1.5人	
計	4人	1人	3人	0人	8人	6人	6人	0人	11人	―	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 2-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
〇	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	きびこく学	8	津川　秀夫	兼担
			8	原田　和宏	兼担
			8	元田　弘敏	兼担
		SDGs概論	4	井勝　久喜	兼担
			4	原田　和宏	兼担
			6	山本　倫子	専任
			6	若森　孝彰	兼担
			4	元田　弘敏	兼担
		グローバルスタディーズ入門	15	山本　倫子	専任
			15	兼田　啓子	兼担
			15	畝　伊智朗	兼担
		課題解決演習	15	樋口　博之	専任
			15	橋本　翠	兼担
			15	村上　勝典	兼担
			15	元田　弘敏	兼担
		キャリアデザインⅠ	10	岩田　美幸	専任
			9	原田　和宏	兼担
			4	藤原　直子	兼担
			12	若森　孝彰	兼担

分野 （基礎・ 専門基礎 ・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・ 兼任）
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	キャリアデザインⅠ	8	井上　優	兼担
		情報活用	15	樋口　博之	専任
		数理・データサイエンス・AI基礎	15	佐藤　匡	兼担
			15	大谷　卓史	兼担
			15	今村　俊介	兼担
		英語基礎Ⅰ	15	嶋村　優枝	兼任
		英語基礎Ⅱ	15	嶋村　優枝	兼任
		アクティブ英語Ⅰ	15	レリージェ デ ラ プラント	兼任
		アクティブ英語Ⅱ	15	イアン・ウォーナー	兼担
		中国語と中国文化Ⅰ	15	孫　基然	兼担
		中国語と中国文化Ⅱ	15	孫　基然	兼担
		フランス語とフランス文化Ⅰ	15	加藤　健次	兼担
		フランス語とフランス文化Ⅱ	15	加藤　健次	兼担
		ドイツ語とドイツ文化Ⅰ	15	清水　光二	兼担
		ドイツ語とドイツ文化Ⅱ	15	清水　光二	兼担
		日本国憲法	15	入江　祥子	兼任
		経済学	15	張　秉煥	兼任
		社会学	15	黒宮　亜希子	兼担
			15	赤坂　真人	兼担
		哲学	15	山本　敦之	兼担
		心理学	3	津川　秀夫	兼担
			3	藤原　直子	兼担
			3	土居　正人	兼担
			3	村上　勝典	兼担
			3	若森　孝彰	兼担
			3	森井　康幸	兼担
			3	宇都宮　真輝	兼担

分野 （基礎・ 専門基礎 ・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・ 兼任）
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	多様性の理解	15	末吉　秀二	兼担
		文章力の基礎	15	雲津　英子	兼担
		美術の見方	15	前嶋　英輝	兼担
		生涯スポーツ論	15	樋口　博之	専任
		生涯スポーツ実習	15	樋口　博之	専任
		数的理解	15	山本　敦之	兼担
		化学	15	秋山　純一	兼任
		生物学	15	香田　康年	兼任
			15	森　芳史	兼担
		環境科学	15	秋山　純一	兼任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	人間科学概論Ⅰ	5	京極　真	専任
			1	高橋　淳	兼担
			3	井上　優	兼担
			5	森井　康幸	兼担
			1	元田　弘敏	兼担
		人間科学概論Ⅱ	1	原田　和宏	兼担
			5	京極　真	専任
			1	森　芳史	兼担
			5	森井　康幸	兼担
			3	中嶋　正明	兼担
		解剖学Ⅰ	15	熊岸　加苗	兼担
		解剖学Ⅱ	15	熊岸　加苗	兼担
		生理学Ⅰ	7	小坂　美津子	兼任
			8	宮﨑　育子	兼任
		生理学Ⅱ	15	内藤　一郎	兼任
		発達心理学	15	宇都宮　真輝	兼担
		神経・生理心理学Ⅰ	15	森信　繁	兼任

分野 （基礎・ 専門基礎 ・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・ 兼任）
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	健康・医療心理学	15	村上　勝典	兼担
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	河村　顕治	専任
		リハビリテーション医学	8	河村　顕治	専任
専門	基礎作業療法学	作業療法概論	3	岩田　美幸	専任
			3	狩長　弘親	専任
			1	山本　倫子	専任
			4	京極　真	専任
			4	寺岡　睦	専任
		基礎作業学	6	三宅　優紀	専任
			2	寺岡　睦	専任
		基礎演習Ⅰ	2	津川　秀夫	兼担
			1	岩田　美幸	専任
			2	樋口　博之	専任
			8	原田　和宏	兼担
			1	三宅　優紀	専任
			1	狩長　弘親	専任
			1	山本　倫子	専任
			1	京極　真	専任
			3	土居　正人	兼担
			5	橋本　翠	兼担
			4	寺岡　睦	専任
			3	若森　孝彰	兼担
			1	井上　優	兼担
			2	熊岸　加苗	兼担
			1	中嶋　正明	兼担
		基礎演習Ⅱ	8	津川　秀夫	兼担

分野 （基礎・ 専門基礎 ・専門）	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・ 兼任）
専門	基礎作業療法学	基礎演習Ⅱ	1	岩田　美幸	専任
			12	原田　和宏	兼担
			1	狩長　弘親	専任
			8	土居　正人	兼担
			10	橋本　翠	兼担
			10	寺岡　睦	専任
			6	若森　孝彰	兼担
			1	井上　優	兼担
	地域作業療法学	人間生活学	15	寺岡　睦	専任
		地域レクリエーション演習	8	樋口　博之	専任
		中山間地域健康増進演習	8	原田　和宏	兼担
			8	山本　倫子	専任
		園芸論	9	岩田　美幸	専任
			9	三宅　優紀	専任
		園芸療法論	15	三宅　優紀	専任
		ガーデニング	15	岩田　美幸	専任
			15	三宅　優紀	専任
	臨床実習	臨床見学実習		岩田　美幸	専任
				狩長　弘親	専任
				山本　倫子	専任
				京極　真	専任
				寺岡　睦	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療提供施設、医療提供施設以外の施設の見学 臨床見学実習	1年前期	人間科学概論Ⅰ	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		作業療法概論	1年前期
		人間生活学	1年前期
医療提供施設、医療提供施設以外の施設での評価の実践 臨床評価実習	3年前期	人間科学概論Ⅱ	1年後期

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療提供施設、医療提供施設以外の施設での評価の実践 臨床評価実習	3年前期	基礎作業学	1年後期
		基礎作業学実習	2年後期
		作業療法評価学総論	2年前期
		作業機能障害評価学	2年前期
		義肢装具学	2年後期
		身体障害作業療法評価学実習	2年後期
		精神障害作業療法評価学	2年後期
		発達障害作業療法学	3年前期
		高齢期作業療法学	3年前期
		認知機能作業療法学	3年前期
		日常生活活動学	3年前期
		身体障害作業療法学Ⅰ	3年前期
		精神障害作業療法学	3年前期
		画像診断学	3年前期
		作業療法実践演習	3年前期
		リハビリテーションマネジメントⅠ	3年前期
通所リハ又は訪問リハの見学 地域作業療法学実習	3年後期	ヘルスプロモーション	3年前期
		地域マネジメント学	3年後期
		生活環境学	3年後期
医療提供施設、医療提供施設以外の施設での治療の実践 総合臨床実習	4年前期	作業科学	3年前期
		身体障害作業療法学Ⅱ	3年後期
		身体障害作業療法学演習	3年後期
		認知機能作業療法学演習	3年後期
		精神障害作業療法学演習	3年後期
		小児リハビリテーション学	3年後期
		高齢期作業療法学演習	3年後期
		日常生活活動学演習	3年後期
		リハビリテーションマネジメントⅡ	3年後期
		リハビリテーション臨床技能演習	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
〇	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	内部質保証委員会
委員名（委員長）	(1)　学長（委員長） (2)　副学長 (3)　学部長 (4)　研究科長 (5)　図書館長 (6)　附属研究所長 (7)　教育開発・研究推進中核センター教育開発副部門長、研究推進副部門長、社会貢献副部門長 (8)　学生部長 (9)　大学事務局長 (10)　教務部長 (11)　庶務部長 (12)　その他学長が必要と認めた者

組織の開催頻度	自己点検・評価、その他内部質保証に関する事項について審議が必要な時（年間6回程度）
組織の取り組み内容	(1)　内部質保証に関する方針および手続の策定の設定 (2)　自己点検・評価の計画の策定と実行 (3)　自己点検・評価およびその結果に基づく改善・向上の支援 (4)　自己点検・評価結果等の公表 (5)　自己点検・評価結果を受けての中期目標・中期計画の作成及び見直し、事業計画立案 (6)　３つのポリシーに関する検証等 (7)　アセスメントプランの実行と評価 (8)　研究活動の点検・評価 (9)　認証評価機関の選択および対応等 (10)　外部評価に関する対応等 (11)　その他内部質保証に関する重要事項・ 学生による授業評価の分析
自己点検・評価結果の公表	ＨＰで公表（URL：　　）

【自己評価 4-2】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	学務代議員教授会
	委員構成等	副学長（教育担当）、副学長（研究担当）、研究科長、学科長
	改善の仕組みの実際	毎年、「シラバス作成の手引き」を作成し、科目担当者にシラバス作成の意義と留意事項を示している。また、科目担当者が作成したシラバスについて、学科内で教員が相互に記載内容の点検、チェックを行う第三者チェックを実施し、修正事項があった場合には修正した上で公表する仕組みを構築しており、シラバスの適切な作成と内容の改善、充実に努めている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

本学では、内部質保証委員会を設置し、自己点検・自己評価及び中期目標・中期計画の策定、また事業計画立案等を行い、教育研究及び大学運営全般に対する自主的・自律的な内部質保証を行う中核組織としている。

令和4年度には、第三者評価として大学機関別認証評価を受審し、「適合」という評価結果を得たが、評価結果を反映させた令和5年度からスタートする第3期中期目標・中期計画（5年間）を策定し、さらなる改善の取組みを行っている。

また内部質保証委員会においては、この中期目標・中期計画に基づき、各年度において、自己点検・自己評価の実施と評価、加えてアセスメントプランに基づくIR 部門からのデータ分析等の評価結果を収集している。報告された評価結果は、内部質保証委員会で検証し、改善の指示が各学部・学科・研究科及び各種委員会等に出されるとともに、FD・SD推進委員会とも連携し、必要な研修会の企画立案など、教職員の能力向上の取り組みにも反映されている。

このように本学においては、全学的な実施方針に基づき、中期目標・中期計画を策定し、併せて各年度においては自己点検・自己評価を実施し、評価結果をもとに、内部質保証委員会を中心に改善の取り組みが実施されるPDCAサイクルが確立している。

なお、第三者評価として、リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定審査も定期的に受けている。